平成26年 消防出初式

無火災・無事故を願い

1月4日、新年恒例の消防出初式が行われ、多くの来賓が見守る中、制服に身を包んだ消防団員と署員が保健福祉センターみなくる前に勢ぞろいし、池部町長や広域連合消防本部原一志消防長、高橋逸郎消防団長などの点呼、観閲を受けました。

引き続き会場をみなくるホールに移した式典では、厳粛な雰囲気の中、多くの来賓を前に、各分団の昨年1年間の火災予防や消火の活動に対し、町長からの感謝状のほか、永年勤続団員に対する北海道知事表彰などの授与・伝達が行われました。

このあと、池部町長から「南富良野消防の伝統を引き継ぎ、町民の安全と郷土の繁栄のために、より一層精進されますようご期待申し上げます」と式辞を述べられ、消防長訓示、来賓から祝辞のあと、高橋逸郎消防団長が「地域の防災のために、あらゆる努力を傾けてまいります」とあいさつし、参列した皆さんは、今年1年の無火災・無事故を願っていました。

■南富良野町長感謝状
南富良野消防団
第1分団・第2分団・第3分団・第4分団

■北海道知事表彰
20年勤続 第2分団 部長 小出直由
第3分団 班長 渋谷浩岐
第3分団 団員 長谷川義勝
南富良野支署 消防司令補 今野祐樹
南富良野支署 消防司令補 石附久也
10年勤続 第1分団 団員 大泉秀喜・渡辺誠路
宮森宣行
第3分団 団員 大和尚樹・永井元勝
第4分団 団員 柴谷一雄・鹿野博史

■富良野広域連合長感謝状
20年勤続 第3分団 分団長 永井敏広
第2分団 部長 小出直由
10年勤続 第4分団 団員 柴谷一雄・鹿野博史

■北海道消防協会長表彰
20年勤続 第3分団 分団長 永井敏広
第2分団 部長 小出直由
南富良野支署 消防司令補 今野祐樹
南富良野支署 消防司令補 石附久也
10年勤続 第3分団 団員 大橋健二
第4分団 団員 柴谷一雄・鹿野博史
南富良野支署 消防司令補 木村亨

■南富良野消防団長表彰
15年勤続 第2分団 班長 市原秀幸・三枝康男
10年勤続 第4分団 団員 柴谷一雄・鹿野博史
5年勤続 第3分団 団員 鈴木悠介・永井洋平

平成25年中の各表彰受賞者

◆叙勲
（平成25年11月3日受賞）
瑞宝単光章（ずいほうたんこうしょう）
南富良野支署
元消防司令 上坂 宰
元消防司令 中野博司

◆上川地方支部長表彰
功労章
（平成25年4月15日受賞）
第1分団 部長 伊賀伸彦

◆上川地区団長会表彰
勤続章
（平成25年4月15日受賞）
第2分団 部長 小出直由
第3分団 班長 渋谷浩岐
第3分団 団員 長谷川義勝

◆富良野地区分会長表彰
功績章
（平成25年6月30日受賞）
第2分団 班長 市原秀幸
第1分団 団員 太田昭二
感謝状
南富良野支署
元消防司令 五日市 勉
元消防司令 山西 暢哉

平成26年 成人式

20歳の誓い 力強く

1月12日、新成人を祝う式典が保健福祉センターみなくるで開催されました。

式典では、父母や来賓の方々が見守る中、真新しい振り袖やスーツに身を包んだ新成人23名が会場に入場し、新たな門出を祝いました。

国歌斉唱と町民憲章の朗読に続いて、河野教育委員長が「皆が譲り合い、支え合うことを大切に、目標を持ち自分自身を向上させるよう努力を重ね我が郷土発展のため、若い力を遺憾なく発揮してください」と式辞を述べたあと、池部町長と鹿野町議会議長から、激励のことばが贈られました。

このあと新成人を代表して佐々木太一さんと佐藤奈緒美さんが「両親をはじめ、多くの人たちに感謝し、誠実な行動と自由と平等の権利のもとに、その義務と責任を果たします」と力強く誓いのことばを述べました。

また、加藤翔太さんと菊地未来さんが交通安全の誓いを、岩本建人さんが「本日、教育委員長様をはじめ、皆様からいただいた数々の教訓を胸におさめ、ご期待にお応えする覚悟です」と謝辞を述べ、新成人の皆さんは決意を新たにしていました。

誓いのことば
佐々木太一 さん・佐藤奈緒美 さん

「定住自立圏構想」に基づく、協定の合同調印式が行われました。

○定住自立圏構想とは

全国的に人口減少や少子高齢化が進行する中、三大都市圏など一部の大都市だけに人や都市機能が集中し、他の多くの地方では、人口減少と過疎化が進み、様々な生活機能が衰退していくことが懸念されています。

また、財政力の弱い小規模な町村などでは、医療、商業、娯楽、行政サービスなどの様々な生活基盤を確保することが困難な状況にあります。

「定住自立圏構想」とは、一定要件を満たす中核的な市が「中心市」となり、近隣する周辺市町村と相互に連携し、役割を分担しながら、将来にわたって暮らしやすい地域圏づくりを目指すことを目的に、平成20年度から国で推進している新しい広域連携の仕組みです。

○中心市と定住自立圏形成協定とは

定住自立圏を形成するには、中心市となる市が一定の要件を満たすことが必要となります。平成25年4月に要件が緩和されたことから、富良野市が中心市の要件を満たすこととなり、昨年9月4日に中心市宣言が行われました。

定住自立圏形成協定とは、中心市とその周辺にある市町村が、人口定住のために必要な生活機能の確保に向けて、それぞれ1対1で協定内容を定めて締結するもので、中心市を含む各市町村ではその締結にあたって、議会の議決を経ることが必要とされています。富良野圏域においては、中心市宣言を行った富良野市と4町村との協議を経て、12月の定例議会で議会の議決を受け、12月25日に富良野市役所で「定住自立圏形成協定」の合同調印式が行われました。

富良野圏域5市町村では、従来から医療・福祉・社会教育など様々な分野で連携してきましたが、定住自立圏を形成することにより、国から財政支援などを受けられるようになります。

今後は、協定事項に基づき、中心市となる富良野市が「定住自立圏共生ビジョン」を策定して、周辺町村とともに更なる連携を強め、住みよい地域圏づくりを目指して事業を推進していくこととなります。